

開催協議会名	令和6年第3回津和野警察署協議会		
開催日時	令和6年9月19日（木）13時55分から16時15分までの間		
出席者	協議会委員	3人（松浦会長、岩本委員、朋澤委員）	
	警察署	7人（署長、副署長、生活安全刑事課長、交通課長、警備課長、地域係長、総務係長）	
会議・協議	署長からの 諮問等	諮問事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS型投資・ロマンス詐欺被害防止対策 ・ 町民が詐欺被害に遭わないための意識付け方策
		報告概要	<p>詐欺の手口を知って防犯力を強化しよう</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 特殊詐欺（振り込め詐欺）の変遷 2 SNS型投資・ロマンス詐欺の現状 3 詐欺被害を防止するための対策 4 SNS型投資・ロマンス詐欺について
		答申(意見等)	<p>【委員】 自分が詐欺にかかっているかどうか判断がつかかねるから被害に遭うのではないかと。 自分が詐欺被害に遭っても人には話さないとこがある。どのような手口や世代が被害に遭っているか。</p> <p>【警察】 SNS型投資・ロマンス詐欺は、投資に興味を持っている40歳代から50歳代の人被害に遭いやすい。最初は少額の投資をさせ利益を出させ、人間関係を築いてからだます手口なので、自分が被害に遭っていることに気がつかない。</p> <p>【委員】 そもそも現在の投資が、現金をやりとりする社会になっていないことから情報収集が必要である。 ロマンス詐欺について、そんな手口でだまされるのか疑問に思うが、実際にだまされる人が多数いることから、具体的に詐欺の手口を広報することが重要だと思う。</p> <p>【委員】 SNS型投資・ロマンス詐欺は、従来の振り込め詐欺のように高齢者が被害に遭うのでなく</p>

	<p>40～50歳代の被害者が多いが、その世代をいかに啓発するかが難しい。高齢者は防犯教室等で啓発できるが、40～50歳代の方は、その機会が少ない。</p> <p>【警察】 従来の特種詐欺と違い、全てインターネット上で犯行形態が完結してしまっている。そういった手口を周知しないといけない。従来のメディアではなく、SNSしか閲覧しない人には、そういった媒体で広報する。</p> <p>【委員】 うまい話があるわけなのに、なぜ投資詐欺の被害に遭うのか。警察から実際に具体的な状況等を周知して、こういうのが詐欺だと啓発してもらいたい。テレビ等の目につくメディアを利用し、詐欺の手口を周知してもらいたい。</p>
<p>諮問事項</p>	<p>山岳遭難・水難防止対策</p>
<p>報告概要</p>	<p>1 山岳遭難とは (1) 当署事案 (2) 山岳遭難防止のポイント</p> <p>2 水難とは (1) 当署事案 (2) 水難防止のポイント</p>
<p>答申(意見等)</p>	<p>○ 山岳遭難について スマートフォンを所持し、位置情報を発信することが大切である。津和野署管内は、多くの登山客がある山はないが、山菜取りに入る人がいる。 昔は、平素から山に入る人が多く山道、里道があったが、今は歩く人もなく山道、里道がなくなってしまった。したがって、よほど気をつけて山に入らないと危険である。</p> <p>○ 水難について 1 地元の木部小学校では、毎年夏になると、水泳教室、着衣水泳を実施している。平素の水泳教室で水泳の技術や水に浮くことを覚えさせることが必要であると考え。今年、津和野署管内の川で水の犠牲者が不幸にも発生</p>

			<p>したが、以前のように川で泳がなくなり、川の危険性を知らない人が多いと感じる。</p> <p>2 水の流れのある川では、ライフジャケットを着用することが有効である。川底の状態はわかりにくく、ここから先が深いというのは大人が確認しないとイケない。</p> <p>川底の石には苔があり滑ったりする危険性もある。川はプールと違う危険があるという広報が必要である。</p> <p>3 川にはいろいろな危険があることを警察だけでなく、学校、地域と連携し広報啓発しないとイケない。</p> <p>4 吉賀町は夏休み中の平日は学校のプールを開放しているので、平日は川で泳ぐ子供はほとんどいない。</p> <p>子供はライフジャケットを、そもそも持っていないと思うので、家庭、学校に働きかけて着用する環境づくりが必要である。</p> <p>川の危険性について、家庭、学校を中心に注意喚起する必要がある。</p> <p>○ 山岳遭難・水難共通 行政の連携で広報する。</p> <p>駐在所勤務員も毎月広報紙を発行し、各種注意喚起をしてくれている。</p> <p>全体として、現場の駐在所勤務員が地元住民と連携して活動してもらいたい。</p>
視 察	KYT（危険予測トレーニング）資機材による訓練体験		<p>訓練内容</p> <p>1 車両円転中の危険予測訓練</p> <p>(1) 発進時</p> <p>(2) 進路変更時</p> <p>(3) 交差点進行時</p> <p>(4) 建物の死角からの侵入車両</p> <p>2 危険予測時の反応</p> <p>(1) 反応時ボタンを押下</p> <p>(2) 反応速度等の確認</p> <p>3 交通課員による説明</p> <p>車両の運転には、危険を予測することが事故防止につながる。津和野署管内の公民館等でも、この訓練資機材を活用して訓練していることを説明した。</p>

委員からの
感想、反響

初めて、この訓練資機材を活用し、訓練を受けたが、車両運転する際には、あらゆる事態を想定して運転することが大切で事故防止につながるがよく分かった。津和野署管内で今後も継続して公民館等で住民を集めて訓練を実施し、交通事故防止に努めてもらいたい。

写 真

【会長挨拶】



【署長挨拶】



【生活安全刑事課長報告】



【地域係長報告】



【意見交換】



【視察状況】

交通係長による説明



危険予測資機材（映像）による訓練状況

